



地域における保護司活動について耳を傾ける参加者
(大阪市北区「豊崎東会館」)

セミナーの冒頭、幸島所長から、今回のセミナーでは、地域の最前線で保護司が、日々格闘されていることは何か。コミュニケーション・ベイスド・トリートメントの視点から、地域で活動さ

第2回よりそいセミナーを開催

「更生保護の現場から」

大阪保護観察所 幸島所長コーディネーター
地域での実践を三名の保護司から報告

れている保護司を知っていたいただき、また理解いただきたい、とあいさつ。引き続き基調的報告と三名の保護司からの取り組みの報告がされた。

保護司の方々からは、少年ケース。月二回の来訪の遵守のストレングスを認め、褒め、丁寧に話をする事で、本人が変化してきたケース。無期刑の高齢者で亡くなるまで保護観察となるケース。薬物・危険ドラッグのケースを紹介。

高齢者では、何よりもけがや病気を気に掛ける。高齢者のなかには累犯窃盗もあるだろうが、住まいや食事などちゃんと手当てし、福祉にバトンタッチをしていけば、累犯は抑制できるのでは、と。また、薬物や

日時/2014(平成 26)年

12月16日(火)

15:30~17:15

場所/「豊崎東会館」

(大阪市北区)

シンポジウム

・コーディネーター/

幸島 聡さん

(大阪保護観察所所長)

・パネリスト/

(高槻市保護司)

(大阪市保護司)

(堺市保護司)

危険ドラッグは、供給源を絶つ必要があるが、困難な時代。保護司は、罪を犯したというフィルターでみるのではなく、大切な一人としてみる。時間をかけて、生い立ちを聴く。いじめにあった、親が仲悪かったなど、いろんな思い入れが出てくる。本人の再発見を応援すること、自分自身も学ぶことができるし、そこが相手にも通じるのでは、と話された。

最後に、幸島所長からは、「本人・家族の立ち直りは、個々にできるものではない。温かい、社会のかかわりが必要。また、福祉の専門的知見も必要。これからも理解と支援をお願いしたい」とまとめられた。
(2面に続く)

目次

- 第2回よりそいセミナーを開催・・・・・・・・・・・・・1・2
- 自立準備ホームの開設／大阪府警へ訪問・・・・・・・・・・・・・2
- 全定協「スキルアップ研修」が大阪で開催・・・・・・・・・・・・・3
- 「第3回よりそいセミナー」「第2回団体交流会」のご案内・・・・4

(1面より続き)

幸島所長からの発言要旨

大阪には、五六の保護区会を設置し、地域活動を行っている。今日の犯罪のパターンを象徴するのが「負のサイクル」。七割が無職で再犯をおこし、刑務所に。高齢者犯罪の7割が生活苦による窃盗。しかも軽微な窃盗、生活困窮における窃盗だ。「万引き」と言えば、少年

非行の代名詞だったが、今日では高齢者が上回る。これは、未



3名の保護司から現場の実践を報告いただ

成年の減少や少子高齢化に配慮しても大きな変化。また、居場所がなく、生活苦、家族がない人も多い。三食・風呂のある刑務所を望む方もいるのが現状。再犯予防にとっては、問題は避けられない。また、高齢者のみではないが、孤立の問題もあり、いわゆる「負のサイクル」に陥ってしまう。社会からの『孤立』が犯罪の大きな要因ではないだろうか。

二〇一五年度から「生活困窮者自立支援法」が、本格施行される。矯正施設出所者も生活困窮者に含まれる。生活困窮者窓口だけでなく、保護観察領域も同様だ。

「負のサイクル」をどのようにに解決するか、必要なことは「正」「プラス」のサイクルにする「行動をしたい」。情報共有・交換の次に、どんな行動をするか。協議会活動・意見交換だけでなく「行動連携」を推進したい。

今日が現場（司法・福祉）の最前線のみなさんの「行動連携」の第1歩となればありがたい。

「よりそいホームプロジェクト 【協働型】」スタート

2015年12月によりそいネットおおさかの加盟法人である株式会社ナイスが、大阪市内に自立準備ホームを開設しました。

特長は、地域ぐるみで利用者を見守るネットワークをベースに支援を行うとしています。

よりそいネットとしても、今後多様なニーズに応えられるような「住まい」を検討していきます。

大阪府警へ 訪問してきました

1月9日に、梶本代表、奥村副代表、武田所長、北場相談員が、大阪府警本部総務部を訪れました。地域生活定着支援センターをはじめとするよりそいネットおおさかの取り組みを紹介するとともに、地域での現状などを意見交換しました。

全国地域生活定着支援センター協議会(全定協) 第5回現任者スキルアップ研修会を大阪で開催 ～全国より500名が参加～

2015年1月21日(火)～22日(水)、大阪国際交流センターを会場に開催されました。2年ぶりに大阪で開催された研修会には、全国各都道府県から500名を超える参加者が集いました。

地域生活定尺支援センターが開所されてから5年を経過する中で、全国各都道府県にセンターが設置され、退所者の安心した地域生活に向けての評価や広がりを見せる半面、地域格差や認識の違いなどバラつきや多様性も見られます。

こうした状況の中で、成果や課題を明らかにし、今後向かうべき方向などについての提起や議論がされました。

また、行政報告では、厚生労働省社会・援護局総務

課の担当者より、これまでの成果とともに来年度の地域生活定着促進事業の方向についての説明があり、これまでの業務料に応じた国庫補助のあり方を検討しているとし、補助事業の一層の効率化や業務の省力化、関係機関との役割分担の見直しなどの説明がなされました。

具体的には、来年度予算については、現行の3/4に(補助基準額の引き下げ/国庫10/10)する旨の説明がなされた。大都市についての配分等傾斜配分も検討されているとのことでしたが、大阪としては大変厳しい説明となりました。

なお、大阪府域からの参加は、150名を数え、多くの皆さんにご参加いただきました。

パネルディスカッション

「今、求められる支援とは ～未来への羅針盤～」

パネルディスカッションでは、「女子施設地域支援モデル事業」「更生緊急保護事前調整モデル」「弁護士会大阪モデル」「定着支援センターでの特別弁護人の試み」など各パネリストの皆さんからホットな話題が報告・提案されました。

パ
ネ
リ
ス
ト

法務省矯正局総務課課長 大橋 哲 さん
「刑事施設における特別調整等福祉的支援の課題」

法務省保護局観察課処遇企画官 稲葉 保 さん
「更生緊急保護事前調整の試行 特別調整・特別処遇」

日本弁護士連合会弁護士 辻川 圭乃 さん
「今、求められる支援とは」

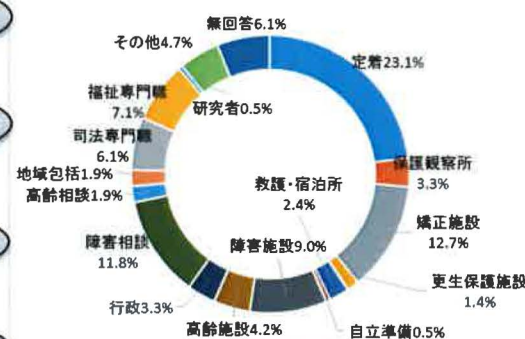
長崎県地域生活定着支援センター所長 伊豆丸 剛史 さん
「“ミクロ・メゾ・マクロ”的視点での考察」

コーディネーター
水藤 昌彦 さん(山口県立大学社会福祉学部)



パネリストからの報告

アンケート回答者の所属



杉良太郎法務省特別矯正監が基調講演

分科会では6テーマで意見交換

高齢者

障がい者

依存症

女性

困難ケース

第3回よりそいセミナーのご案内

日 時 2015年3月13日(金) 15:45～
(交流会 18:00～)

場 所 「豊崎東会館」(大阪市北区)

テーマ 「医療的ケアの現場から」

・現場の医療機関からのご報告を伺います。

第2回「支援機関・団体交流会」のご案内

日 時 2015年3月13日(金)
12:30～15:30

場 所 「豊崎東会館」(大阪市北区)

プログラム 「基調報告と意見交換会」

- 基調報告 水藤 昌彦さん(山口県立大学社会福祉学部准教授)
- 意見交換 砂川更生福祉センターと定着支援センターとの共催で、退所者の地域生活支援を実際に受けれていた施設や団体の方々に集まっていただき、悩みや課題の共有を図ります。

来年度の国の予算が決定し、地域生活定着促進事業(地域生活定着支援センター)の予算は、これまでの予算の3/4となりました。

退所者のフォローアップや相談支援は、各自治体の予算対応でとのこと。件数や大都市といった実績による傾斜配分もあるとのことですが、まだまだ不透明な状況です。詳細が分かりましたらご報告します。(K)

◇メーリングリスト登録希望の方

表題にメーリングリスト登録希望としていただき、①名前 ②所属 ③登録するメールアドレス、をご連絡ください。



oosakateichaku@oosaka-teichaku.jp

一般社団法人よりそいネットおおさか

大阪府地域生活定着支援センター

住所 〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号

電話番号 06-6762-8644 FAX 06-6762-8645

電子メール アドレス oosakateichaku@oosaka-teichaku.jp

Web サイト <http://yoriso-osaka.jp/>



一般社団法人

よりそいネットおおさか

